

TPP 協定交渉参加 9 カ国首脳会合(概要)

平成 23 年 11 月 16 日
外務省経済連携課

11月12日、TPP協定交渉参加9カ国(米国、豪州、ブルネイ、チリ、マレーシア、ニュージーランド、ペルー、シンガポール、ベトナム)は首脳会合を開催し、会合後にTPP首脳声明及びTPP協定の輪郭に関する文書等を発表したところ、主な概要は以下のとおり。

1. 首脳声明

- (1)9カ国首脳は、本日TPP協定の大まかな輪郭を発表した。貿易投資自由化に関する包括的で次世代型の地域協定をつくるための画期的な成果を喜ばしく思う。将来の他の自由貿易協定のモデルになるであろうことを確信。
- (2)首脳は、この協定をできるだけ早く妥結できるよう必要なリソースを投入することを約束した。同時に、各国により様々に異なるセンシティブな問題の交渉が残されていることを認識し、各国の多様な発展のレベルを考慮しつつ、包括的かつバランスのとれたパッケージの文脈の中で、これらの問題に対処すべく適切な方法を見出す必要がある。そのため、交渉チームに対し、作業を継続するとともに、2012年における追加的な交渉会合の日程を調整するため、12月上旬に会合を開くことを指示した。
- (3)我々は、太平洋全域での自由貿易につながる道を切り開くという最終目標に向けたこの進展に喜んでいる。この地理的にも経済発展のレベルにおいても多様な現9カ国によるパートナーシップを、この地域の他の国に広げることに強い関心を共有。協定の妥結に向け進む中で、我々は、交渉チームに対し、TPP参加に関心を表明した他の環太平洋のパートナーの将来的な参加を促進するため、これらパートナーとの対話を継続するよう指示した。

2. TPP交渉参加国首脳会合におけるオバマ大統領の発言

(スケジュールに関する部分のみ抜粋)

「我々9カ国が協定の大まかな輪郭に合意できた旨の発表を行えることを嬉しく思う。未だ細かな課題は多く残されているとはいえ、これら処理できることを確信している。よって、我々は、交渉チームに対し、来年中に協定を完成させるよう指示した。それは野心的な目標ではあるが、これを達成できることについて我々は楽観的である。」

(了)